アイヌ文化・大雪山文化発信のために
北海道東川町により企画・制作された

映画 カムイのうた 上映会

入場無料

日　時

令和7年
3月20日（木・祝）
14時～
16時30分
（開場 13時30分～）

場　所

美唄市民会館
大ホール
（西4条南1丁目4-2）

定　員

先着 600名
年齢制限なし

申　込

申込フォームからの申込

【URL】https://www.harp.lg.jp/fvlPjW4J

※申込フォームから申し込みができない場合、問合せ先にお問い合わせください。

問合せ

企画財政課企画戦略係
☎0126-35-7751／✉kikaku@city.bibai.lg.jp

主催：美唄市／写真文化首都「写真の町」東川町

映画「カムイのうた」

「カムイのうた」とは

1903（明治 36）年北海道登別市で生まれ、19 歳の若さで亡くなったアイヌ文化伝承者「知里幸恵※（ちり・ゆきえ）」さんをモデルにした映画。

※知里幸恵さん…口語伝承のみで継承されてきたアイヌ文化を初めて日本語に訳した『アイヌ神謡集』の著者。
19 歳という若さで生涯を終え、北海道の先住民族であるアイヌとして、いじめや差別に抗いながらも、アイヌ文化を後世に残すために尽力されました。
その著書とそこに込められた精神によって、さまざまな人たちに感銘を与え続けています。

STORY- ストーリー -

アイヌの心には、カムイ（神）が宿る――

学業優秀なテルは女学校への進学を希望し、優秀な成績を残すのだが、アイヌというだけで結果は不合格。その後、1917（大正 6）年、アイヌとして初めて女学職業学校に入学したが、土人と呼ばれ理不尽な差別といじめを受ける。

ある日、東京から列車を乗り継ぎアイヌ語研究の第一人者である兼田教授がテの伯母イヌイェマツを訪ねてやって来る。アイヌの叙事詩であるユーカラを聞きにきたのだ。伯母のユーカラに熱心に耳を傾ける教授が言った。「アイヌ民族であることを誇りに思ってください。あなた方は世界に類をみない唯一無二の民族だ」

教授の言葉に強く心を打たれたテルは、やがて教授の強い勧めでユーカラを文字で残すことに没頭していく。

そしてアイヌ語を日本語に翻訳していく出来栄えの素晴らしさから、教授のいる東京へと向かうテルだったが、この時、再び北海道の地を踏むことが叶わない運命であることを知る由もなかった…。

「カムイのうた」に込める願い

この映画は、大雪山の地域の自然の美しさを描きながら、知里幸恵さんの生涯をモデルに物語を紡ぎ、虐げられてきたアイヌ民族の文化の重要性を伝えていくとともに差別のない世界を目指すための作品です。アイヌが暮らしていた自然環境の豊さ、社会環境の厳しさを通して、文化や価値観が多様であることの尊さ、北海道が世界に誇るアイヌ文化の素晴らしさを伝えるために製作しました。

また、この作品を通じて、差別や迫害という過去・歴史だけではなく、今この瞬間にも「いじめ」や「差別」、「紛争」といった問題が発生していることを再認識していただきたいです。これからの社会を作りあげていく次世代にとって、国内外の社会問題を解決し、共和共生社会を実現するきっかけの一つになれば幸いです。

写真文化首都「写真の町」北海道東川町